

レジ袋の削減

レジ袋削減の効果は？

大分県では、平成21年6月から「レジ袋無料配布中止」の取組が始まり、平成28年8月末現在県内の食品系スーパーを中心に32事業者1組合336店舗が参加しています。

この取組により、買い物客の約85%がレジ袋を使わなくなり、発生するCO₂やごみが減り、原料として使用する石油の削減につながるなどの効果がありました。



レジ袋無料配布中止の効果

H21.6 - H28.8の86ヶ月間

平均マイバッグ持参率	84.9%
累計レジ袋削減枚数	632,401,018枚
CO ₂ 削減量	約39,209トン
ごみ削減量	約6,324トン
石油削減量	約11,573KL

レジ袋の代金どう使われるの？

レジ袋が必要な場合には、レジでお金を払えばレジ袋をもらうことができます。

では、みなさんが支払ったお金はどのように使われるのでしょうか？

スーパーでレジ袋をもらった時に支払ったお金からレジ袋の仕入れ代金と消費税を引いたものを「レジ袋収益金」といい、このお金は「環境保全活動に使う」と、お店、消費者団体、県・市町村の間で約束を結んでいます。

具体的には、小学生が環境を守る活動に使えるように小学校のPTAに寄付をしたり、県や市町村に寄付したりしています。

県では、寄付いただいた収益金を活用して、就学前の子どもたちが環境問題に関心を持つきっかけとなるよう、「環境劇」の公演や「環境ワークショップ研修」を行っています。

環境劇の公演では、ごみを捨てないことやレジ袋無料配布中止の取組や、温暖化対策の大切さを伝えます。

観劇した子ども達は、着ぐるみを着た二人の出演者と進行役のお姉さんの愉快的な演劇を楽しみながら、環境を守ることの大切さについて学ぶことができました。

環境ワークショップ研修では、体験プログラムの実践をつうじて、幼稚園等の子どもたちや指導者（先生等）が一緒になって環境の大切さを学びます。

子どもたちには、楽しみながら環境問題に関心を持つきっかけをつくり、指導者にとっては環境ワークショップの手法を学べる貴重な機会となります。

